

衆議院議員

辻元清美

国政NEWS

つじとも通信 VOL.23
2011.10.01

連絡先・編集：辻元清美とともに！市民ネットワーク

高槻事務所 ○〒569-0805 大阪府高槻市上田辺町6-20 寺本レジデンス2F
TEL072-686-2395 FAX072-686-2396

国会事務所 ○〒100-8982 東京都千代田区永田町2-1-2 衆議院第二議員会館504
TEL03-3508-7055 FAX03-3508-3855

URL ○<http://www.kiyomi.gr.jp/> E-mail ○info@kiyomi.gr.jp

8月7日、気仙沼で子どもからカブト虫を受け取る枝野前官房長官と。この子らの未来を守らねば。

日本は「非常事態の真っ只中」と、私の体の中のアラームは今も鳴り続けています。M九という世界史上五番目の地震、そこに最大規模の津波が襲いかかり、さらにレベル七というチェルノブイリ級の原因事故が重なった。正に、人類史上最大規模の複合災害の真っ只中にいるのです。震災から三日目、首相補佐官に任命されて以来、日本は「極限状態」だと痛感しながら、官邸と被災地を往復して危機管理にあたりました。

日本は、震災前から、自殺者は後を絶たず、「孤族」という言葉が生まれるような社会状況でした。そこに震災が追い討ちをかけ、日本は生活できない人をさらに大量に抱える国になってしまったのです。みんなが食べていけないのが政治家の最大の務めです。食べていけない社会がファシズム・戦争への道につながる。これが歴史の最大の教訓です。「平和が大事」と叫んでも、「かまど

の煙」が立たなければ平和は実現しません。まず、みんなが食べられるようにする。これが今の私の最大の役割だと腹をくくりました。しかし、政治に「魔法の杖」はないので、思うように進まず一進一退です。

ただ批判をするだけなら簡単です。私も「批判の女王」と呼ばれた時代もありました。外部から権力のチェックを行う存在は必要ですが、今はそこにエネルギーを使うより、自分でできることを一つでも二つでも具体的に実行し非常事態から脱出したい。やればできることはたくさんある。本号では、NPO法改正、社会的包摂政策取りまとめ、被災地での病院立ち上げ、浜岡原発停止、NPO・行政・政府の連携など、この半年間で実現できたことのごく一部を紹介しました。今後は東北をはじめ全国の若者の仕事作りや、大阪商人の下根性を發揮して新幹線技術の海外展開の「行商」などにも取り組みます。

「本気で変えたいから」 決断しました。

浜岡原発停止と菅前総理の

「脱原発依存」発言に関わる

過程では、政治と運動が共鳴した時、大きな政策転換ができるという手応えも得ました。でも政府の中の動きを作るとはたやすくはありません。それは自民党政権からしみついた官僚システムの流れの壁がまだあるから。私は国交副大臣時代から、JAL再生やJRN不採用問題解決など、官僚と対立するのではなく「人として」対話を通じて政策実現につなげてきました。本気で日本を変えようとするならば、志を同じくする官僚とのチームプレーをどれだけ築けるかが鍵。

総理官邸という「官僚システムの総本山」で働いて、このことを今まで以上に実感しました。官僚のピラミッド型思考とNPOのネットワーク型思考がかわりあわず、全庁が参加する被災者支援の会議では、私の発言が遮られることもしばしば。でもねばり強く対話を

特別寄稿◎辛淑玉さん (人材育成技術研究所 所長)

汚染されたビフテキを食らう

辻元清美が民主党に入党したというニュースを見て、多くの支持者は、何か割り切れないものを感じたのではないだろうか。

辻元清美を思想信条だけで見ていると、そう思うかも知れない。

私は、今度の決断を、「清美は『より危険でパワーのある方』をまた選んだのだ」と思った。そして、それこそが、彼女の政治家としての資質を示している。

彼女の生き方に、芸術家の故岡本太郎が重なって見えるときがある。岡本は1967年、ベ平連がワシントン・ポストに出した意見広告の題字「殺すな」を描き、当時は反権力の象徴的な芸術家として受け止められていた。

その彼が、権力の祭典である大阪万博（1970年、テーマは「人類の進歩と調和」）のプロデューサーを引き受けたとき、当然多くの左派から批判を浴びた。

岡本は、万博の記者会見場で、「『人類の進歩と調和』なんてクソ食らえだ！」と、まず一発かまし、引き受けた理由を、「危険だからだ」

と言いつつ。彼は、選択をしなければならぬときは、いつでも「危険な方」を選択する、と言った。そして、権力の庇護のもとに生きてきた丹下健三の近代的建築物の真ん中に風穴をあけて、シンボルトワー「太陽の塔」を作った。

右からも左からも叩かれ、作った作品も批判の嵐にさらされたことは、当時小学生だった私にも、うっすらとした記憶がある。しかし、あれから40年以上たった今、唯一残っているのがその「太陽の塔」だ。

その岡本の生き方に、辻元清美が重なる。

社民党の中にいれば、思想信条の上での筋も理屈も立つだろう。しかし、彼女の生き方は、いつだって、より危険でパワーのある方を選び、イチかバチかの賭けに出て果実をもち取る、というものだった。それゆえに、究極の孤独を何度も味わったはずだ。

左派的な思想信条の中で期待に応える生き方は、どれほど楽だろうか。しかし、楽であればあるほ

ど、彼女はそれを選ばない。安全で美しく見えるミネラルウォーターを飲むような、論理的に整理された「左翼」の生き方の中には弱者の生存空間がないことを、彼女は肌で知っているからだ。

辻元清美が民主党に入ったということは、汚染まみれのビフテキを食べる決断をしたことだと言ってもいい。そこには、忘れられたかつての「左派の気迫」がある。

政治は権力闘争だ。政治家とは、野心を抜きにしては成り立たない商売だ。自分の印象操作だけに注意を払い、この社会に住む人々のための政治をしない政治家がゴマンといる中、多くの人から批判されても権力を取りに行く姿勢は清々しい。

綺麗事を言わず、泥まみれになって権力にしがみつこうともがく彼女の背中には、おんぶ紐で背負った「弱者」がいる。

彼女が政治をし続ける理由はそこにある。



しん・すご：人材育成コンサルタント。辻元清美とはピースボート時代からの「戦友」で、ともに「男社会」における差別のカベに突き当たっては乗り越えてきた。『せっちゃんのごちそう』（日本放送出版協会）

・『差別と日本人』（野中広務・共著、角川グループパブリッシング）など著書多数。

続け、各地でのボランティアの奮闘ぶりがじわじわと浸透しはじめると、最後には「NPOなどの力なしに復興は不可能」という空気に政府も変わりました。

非常時の政権中枢で、しかも「市民活動出身の総理」の間近で仕事ができたことは、替え難い経験でした。あらゆる会議の場で「女性は私一人」だったり、「統治」の難しさに直面したり。この半年で学んだことを次の政治に活かしていくことは、私の使命です。雛鳥が卵からかえる時に外と中から「トントン」と叩いて割るように、政治の外の運動と政府の中の動きが重なった時、「変革」が起こるのです。

沖繩の基地問題も同じです。政府は「日米合意を踏まえて」と繰り返す一方で「沖繩の合意なしでは進めない」という姿勢も示しています。沖繩県知事は米国で「新基地建設はいらぬ」と訴えまじった。政権・与党の中でも、このような沖繩の厳しい声をしつ

かり伝え、実現していく役割が今こそ必要と考えます。

野党時代の私は官僚の「論破」が役割でしたが、今後は「対話と説得」でチームプレーを目指します。脱原発への動きを後戻りさせないため、また沖繩の基地問題の解決のため、「中」からの変革という困難な道に挑戦です。どんな権力も腐敗するので、権力に切り込むことは必要ですが、「中」から権力の質を変えることこそ政権交代時代の政治の本質ではないでしょうか。

「民主党に入って大丈夫？」と心配の声もいただきました。私の理念は変わりません。理念を実現するために決断をしたのです。

「政権交代しても自民党と同じ」と糾弾するのではなく、「自民党と同じにしないため何をすべきか」という発想で、「政権交代を無にしない政治」を実現するために行動します。

辻元清美

南三陸町長「自治体に寄り添って解決してくれた」

津波で町立病院を流された南三陸町では、数ヶ月後も電気も水道もこないプレハブの診療施設があるのみ。病気のお年寄りが猛暑の中や豪雨の中、外に並んで待っているという状態でした。

南三陸町長からの訴えを聞いて辻元清美は、すぐに中間的な「仮診療所」をつくるために関係機関の調整に取り組みました。まもなく、「いま実現に向けて動き出している」と町長から報告を受けました。また「神戸新聞に辻元さんのことが出ていますよ」とも教えて頂きました。



上) 6月25日、南三陸町役場にて町長と。
左) 7月23日神戸新聞。

論説 さらん

「ようやく苦声に念願の水道が通せました。仮設住宅も順調で、お盆までには全入居できそうです」

東日本大震災で被害を受けた宮城県南三陸町の佐藤仁町長から、うれしい便りが届いた。少しずつではあるが、復興への歩みが進んでいる様子がうかがえる。

さらに手紙では、国の動きは鈍くて懸念しているが、ある国会議員に相談したところ「自治体に寄り添って解決してくれた」と書かれていた。「ほかの議員は大いに見習ってほしい」と添えてあった。

その議員は、阪神・淡路大震災でのボランティア経

寄り添うとは

験もある。聞いてみると、沙汰がなかったという。町からもらった宿題を一刻も早く解決しようと、東北から帰る車の中で各省庁に問い合わせ、町に返答したそう。すると、町長から「相談して返事をもらったのは初めてだ」と感激されたという。

震災後、同町を訪れた国会議員は100人を超え、町長ら幹部は復旧・復興に追われる中、貴重な時間と労力を割いて対応した。被害の全容や現状を訴えることで、少しでも復興に力を貸してもらいたい。そんな一心からだった。しかし、思語っていた。寄り添うとは、心が受止められなかったのか、ほかの議員からは音

(美)

議員立法でNPO法改正が実現！

超党派議連の幹事長として実現させました

6月15日、NPO法改正案が参議院本会議にて全会一致で可決！ 約50%の税額控除が可能になる今回の法改正は、辻元清美にとって15年間の悲願。ねじれ国会のなか超党派のNPO議員連盟（加藤紘一会長）幹事長として、昨年秋から法案作りや与野党調整に取り組みました。内閣不信任案が提出されるなど与野党対立が激化し、他の法案が一本も通らないなか改正NPO法だけ成立したのは「奇跡」と評されましたが、本当に国民のためになることは「やればできる」。辻元と一緒に被災地を訪れた枝野前官房長官は「ボランティア団体への財政支援を三次補正で」と明言。法律ももっと使いやすくします！



上) 記者会見会場で、NPO議員連盟役員やNPOの皆と。
下) 9月3日朝日新聞「政治考」(星浩さん)より抜粋。

ドキュメントNPO法改正

鳩山政権のもと「新しい公共円卓会議」ができ、税制優遇について検討がされてきた。菅政権の「新しい公共推進会議」に私はオブザーバー参加。

私は「これは、超党派の議員立法でやるべき」と確信。NPO議員連盟を再編し、幹事長として各党と議論を重ね、条文作りから行ってきた。「国会はねじれだが、これだけは絶対に成立を」と議連メンバーの意思一致が計られた。NPOなど現場との意見交換も繰り返し行ってきた。内閣府も、地方自治体との協議を辛抱強く重ねてくれた。

3月11日13時から、NPO議員連盟の役員会が行われた。あと一步、思った直後に東日本大震災が発生した。その後は総理大臣補佐官に任命され、NPO・NGOと連携。優遇税制を実現してNPOを元気にすることは急務、と痛感。再び、NPO議員連盟で法改正のための会合を重ねた。最終局面、衆議院法制局は3日間泊り込みの作業に。

そして6月1日。各党の担当者に電話をかけまくり、党内手続き前倒しのお願い

をしたかいあって、前日までに全党の党内手続きが終了。3日の内閣委員会で可決されれば、7日の本会議で採決され、衆議院を通過する——と思ったところで、内閣不信任案が出され、すべての国会日程は吹っ飛んだ。国会の一寸先は闇だ。それにもめげず、各党に働きかけ続け、9日の衆議院本会議、15日の参議院本会議、全会一致でNPO法改正案は可決！

私は今回の法改正で3つの「変化」があると考えている。
①経済のあり方が変わる。企業のCSRとも関連し、地域に根ざした絆の経済を促進することになる。

②政治のあり方が変わる。たとえねじれ国会であっても、本当に国民のためになる課題は党派を超えて取り組めることがわかった。何度も何度も会合を繰り返し、一つひとつの条文を現場の方々や有識者とともに検討を重ねた。そして定期的に集会を開き、ネットを通して議論の過程や果実をオープンにしていた。この立法過程はいわば国会の「熟議のあり方」そのものだった。

通常国会での議員たちの活躍を評価する国会「三賞」は5回目となる。1月24日から8月31日までの220日間という長丁場。東日本大震災、菅直人内閣の不信任決議案をめぐり攻防、そして菅氏から野田佳彦氏への首相交代と、めまぐるしかった。

その中で地味ではあるが、キラリと光る議員立法に殊勲賞を贈りたい。超党派のNPO議員連盟(代表・加藤紘一元官房長官)が提出したNPO法改正案が成立にこぎつけた。関連の税制改正も実現して、NPOへの寄付が大幅に広がることになった。NPO法人は現在、4万2



イラスト・郭温 / The Asahi Shimbun

千を超えるが、そのうち寄付者が減税のメリットを受けられるのは200余。減税適用の条件が厳しかったためだ。法改正では、要件を大幅に緩和。100人からそれぞれ3千円以上の寄付を集めればよいことになった。1月から適用されるが、そのうち寄付用されるため、大震災関連の寄付も減税の対象となる。例えば、NPOに10万円を寄付すると4万9千円の税金が還付される仕組みだ。税金は、お上が吸い上げて補助金などで配るという制度に風穴が開く。法律の条文を書いた議員連盟の岸本周平事務局長は「寄付という形で、市民が補助金の行く先を決められる。社会のありようを変える画期的な制度だ」と話す。

③何より震災以降の日本が置かれた厳しい状況のなかで、社会を変える起爆剤になる。日本は「無縁社会」などといわれてきたが、復興の基盤がNPOになっていくと私は考える。

被災地では自衛隊や自治

体、国とNPOが同じテーブルにつき、情報を開示しながら被災者支援の調整会議を行った。大きく時代は変わったのだ。皆でつかんだ法改正、今年を「寄附元年」としてより社会の絆を強めたい。

三賞

地味でもキラリ NPO立法

社会的包摂政策、緊急提言を出しました

特命チーム座長代理として、NPOと連携してつくりました

「孤族」「無縁社会」といわれる状況を変えようと立ち上げた「一人ひとりを包摂する社会」特命チーム。辻元清美は座長代理として、元「年越し派遣村」村長の湯浅誠さんらと緊急政策提言をつくりました。じわじわと社会の体調を整える、漢方薬のような政策。今後は提言を実行にうつします。



「一人ひとりを包摂する社会」特命チーム会合。「私のやりたいことを5つの特命チームとして指示した」と菅さん。菅政権を象徴する仕事でした。

衆議院・国土交通委員(理事)、東日本大震災復興特別委員として働きます。

復旧支えたオールジャパンのボランティア

今回の震災は個人ボランティア、NPO・NGO、社会福祉協議会、労働組合や生協、企業など、オールジャパンで東北の被災者を応援するボランティアの取り組みがなされました。

私はボランティアが行きやすくなるよう鉄道・航空会社に割引をかけあい、「ボランティア休暇」拡大を経済団体に働きかけました。ボランティアの基地を整備し、情報提供し、雇用が生まれるように被災地を走り回りました。九月現在、個人で七三万人、団体も入れれば一〇〇万人近くがボランティア活動に参加しました。まさに自衛隊に次ぐマンパワーでした。

時間ができれば寝袋をもって被災地へ。被災三県の沿岸市町村にはすべて入りました。現場で見聞したことを政府の政策に反映することが私の大きな役割。政府や自治体とNPOの連携も各地で実現。いまは地元NPOが底力を発揮。いまは地元のNPOが見守りや仕事づくり、広域の祭りを開催するなど、自立と復興に向け役割を担っています。

そうしたなか頂いた多くの「宿題」を、今度は衆議院の復興特別委員として解決をめざします。ユニティビジネスなど、若い人たちが東北で子育てをしながら暮らしていけるような起業助成のしくみができないか、経済産業省とも協議を続けています。

「浜岡原発停止」は政権交代の成果

「脱・原発依存」と菅首相が発言するまでの道のりも平坦ではありませんでした。米国の識者を引き合わせたときも菅さんは「原発事故直後どう進展するかわからなかった。東京全域に被害が及ぶ事態を想定した時、避難方法が見つからず背筋がゾツとした。狭い日本で原発との共存は無理と思いつた」。「総理、その通り国民に言うよ」と私が言うと、「総理としてどこまで本音で語ったらいいか難しいんだよ」。「ここまで弓矢を打ち込まれたのだから開き直ったら」と置み掛けると「もう刺さる所がないよ」と苦笑い。

私はエネルギー政策を転換するために首相官邸の中で力を尽くしました。最も危険といわれた浜岡

原発を停めたことは、自民党政権では絶対できなかったこと。「この流れを止めてはならぬ」と今まで以上に強く決意しています。

経済の復興、そして心と絆の復興を！

日本の危機に立ち向かうためには「強さと優しさ」両方が必要。国土交通副大臣として羽田空港のオープン化や観光政策など成長戦略に取り組みました。当時ベトナムなどに新幹線を「営業」していましたが、M九・〇でも停止して事故を起こさなかった新幹線は、世界に誇る技術。海外展開が実現したら日本は明るくなる！

私は副大臣時代から自転車と公共交通機関を組み合わせたエコなまちづくりを提案してきました。交通基本法はその柱、国土交通委員として国会での成立を目指します。そして孫や子の世代のために、「川を自分たちできれいにしよう」と、「新しい公共」の実践として提案していきます。



多所彩々辻元清美の活動報告<抜粋>

6月

1日 JCN(東日本大震災支援全国ネットワーク)と各省庁との定例連絡会議。日本航空社長面談。生協連打合せ。

2日 JTB打合せ「ボランティア・ツアー」。本会議。

3~4日 被災地訪問(岩手県盛岡市「JCN現地会議in岩手」、花巻市)。

7日 被災者生活支援チーム運営会議(以下、被災者支援会議)。

8日 衆議院内閣委員会傍聴・NPO法改正案可決。震災ボランティア連携室(以下、連携室)会議。JTB打合せ。

10日 被災者支援会議。本会議。日本記者クラブ記者会見。

10~13日 被災地訪問(釜石市「菅総理に同行」、仙台市「孤立死防止の有識者会議」、石巻市、相馬市、新地町)。

14日 参議院内閣委員会傍聴・NPO法改正案可決。新しい公共推進会議・震災支援制度等ワーキンググループ合同会議。被災者支援会議。本会議。

15日 NPO法改正案成立記者会見。学生震災ボランティア団体面会。エネルギーシフトジャパン院内集会。

16日 民主党震災ボランティア室と意見交換。被災者支援会議。ユルゲン・トリティーン氏(同盟90/緑の党連邦議会派会長、前連邦環境・自然保護・原子力安全大臣)来日ドイツ大使公邸夕食会。

17日 TBS「ひろおび」出演。

18日 被災地訪問・菅総理に同行(千葉県習志野市、浦安市)。

19日 「自然エネルギーオープン対話」菅総理と国民がネットで意見交換(東京・官邸)。

20日 被災者支援会議。ap bank小林武史氏面談。日中友好協会代表団歓迎レセプション。

21日 連携室会議。

22日 被災者支援会議。本会議。JCNと各省庁との定例連絡会議。

23日 英国新聞「フィナンシャル・タイムズ」取材。国際広報室立ち上げ。

24日 被災者支援会議。関東交運労

協・交通政策研究会講演。日本観光旅館連盟総会懇親会。政治リテラシーを高め合うための市民塾講演。

26日 資料整理。

27日 被災3県支援プロジェクト代表者との意見交換。

28日 被災者支援会議。

29日 米大使館・東京アメリカンセンター主催朝食会「NPOと行政の役割と協力」。JCN現地会議in福島。

30日 JCN代表世話人との意見交換。

7月

1日 被災者支援会議。

3日 NPO法改正緊急報告会(高槻市)。

4日 新しい公共をつくる市民キャビネット政策フォーラム。アメリカ独立記念日レセプション。

5日 NGO団体との意見交換。国土交通大臣申し入れ。エジプト大使面談。中国記者団取材。

6日 自民党谷垣総裁夫人お別れの会。

7日 経済産業調査室レクチャー(以下、レク)「自然エネルギー」。観光庁レク。

8日 被災者支援会議。連携室会議。本会議。

9日 上野千鶴子氏最終講義受講(東京大学)。

11日 佐藤南三陸町長面会。フィリピンNGO面会。

12日 被災者支援会議。

13日 連携室会議。NPOチャリティーパーティー。

14日 郵便局長会会長面談。観光庁長官打合せ。本会議。

15日 被災者支援会議。本会議。日韓観光交流拡大のタベ。

16日 音楽フェスティバル「ap bank fes」トークセッション出演。村井宮城県知事らと(静岡県掛川市)。

17日 「がんばろう若山台」イベント(島本町)。

18日 チャリティコンサート(高槻市)。

19日 新しい公共推進会議。笹森清氏お別れの会。

20~21日 被災地訪問(福島県郡山

市、福島市「ふくしま連携復興センター設立会議」、南相馬市)。

22日 公益法人協会面会。私鉄総連自治体議員団会議幹事会講演「交通基本法」。アメリカ高校生ボランティア面会。

23日 国政報告会「永田町航海記in島本」。「永田町航海記in高槻」。高槻市医師会看護学校40周年記念式典。夏祭り(高槻市・島本町)。

25日 市民団体より在外被爆者の報告。ジェラルド・カーティス氏と菅総理の面談に同席。三宅一生氏・吉永小百合氏会合。

26日 被災者支援会議。

27日 東日本大震災ボランティア連携会議(岩手県盛岡市)。

28日 TBSラジオ収録。本会議。

29日 被災者支援会議。パナソニック社長面談。観光庁長官面談。

30日 夏祭り(高槻市)。

8月

1日 被災3県の連携復興センターとの意見交換。連携室会議。記者レク。

2日 本会議。連合面談。被災者支援会議。

3日 国際海事機関(IMO)事務局長関水氏面会。超党派女性議員「おひとりさまの会」勉強会。

4日 JCNと各省庁との定例連絡会議。本会議。若手社会起業家との会合。

5日 被災者支援会議。本会議。

6日 大阪10区自治体議員との勉強会。夏祭り(高槻市、島本町)。

7日 被災地訪問・枝野官房長官と共に(宮城県気仙沼市)。

9日 NPO法人フロレンス代表理事駒崎氏面談。

10日 濱田高槻市長面談。交運労協政策推進議員懇談会。記者ブリーフィング・湯浅誠室長と共に「震災ボランティアの活動状況」。一人ひとりを包摂する社会特命チーム会議。

10~12日 被災地訪問(岩手県大槌町「三陸海の盆参加」、釜石市、山田町、遠野市、宮城県仙台市)。

15日 全国戦没者追悼式、全閣僚と。

20日 墨田ジャズフェスティバル。

21日 資料整理。

22日 菅総理に説明報告「震災ボランティア」。

23日 震災ボランティア連携のための関係府省庁打合せ。自由報道協会記者会見。被災者支援会議。本会議。

24日 私鉄関西地連大会(兵庫県豊岡市)。

25日 生協総合研究所発行「生活協同組合研究」取材。経済産業省レク「コミュニティビジネス」。

26日 毎日新聞取材。連携室会議。

27日 防災訓練(高槻市)。夏祭り(高槻市、島本町)。

29日 原稿執筆。

30日 本会議・首班指名。

31日 本会議。NPO法人ETIC面談。

9月

1日 福島交通(株)・岩手県北自動車(株)社長面談。

2日 内閣総理大臣補佐官辞任。

2~8日 地元支援者と懇談。

9日 日本弁護士政治連盟大阪支部会合。

10日 民主党入党記者会見(高槻市)。たかつきりベラルネットワーク設立集会。高槻医師会災害医療救護訓練。

11日 「つじもとネット」ボランティア拡大会議。

12日 BS11「IN side OUT」出演。

13日 日中友好協会訪日団・中国新疆親情中華芸術団面会。本会議。東日本大震災復興特別委員会。雑誌「AERA」取材。

14日 放射能除染緊急勉強会。国土交通(以下、国交)コアメンバー会議。本会議。国交部門会議。

15日 NPO議員連盟役員会。日本商工会議所総会懇親パーティー。震災ボランティア官邸引継ぎ。本会議。国交委員会理事懇談会。野田聖子議員のさらなる飛躍を期待する会。朝日地球環境フォーラムディナー。

16日 本会議。

17日 街頭演説(高槻市)。

18日 島本町福祉大会。敬老会。街頭演説(高槻市)。

20日 早朝街頭演説(高槻市)。国交コアメンバー会議。

清美in近畿 多くの方々に支えられて

9月11日、地元でいつもボランティアをしてくださっている方、近畿のつじともネットの会員の方に集まって頂きました。急な呼びかけにも関わらず多くの方にご参加頂きました。

この日、辻元清美から「政権交代を進化させていきたい」と民主党入りへの思いを語ったあと、ご意見をいただきました。「官僚を上手に使うことが大事」「護憲と脱原発で頑張る」「民主党に入ればかえって選挙は厳しい」「今後社民党との関係は」など厳しいご意見も出て、時間を大幅に超過して意見交換をしました。それでも辻元の理念が変わっておらず、むしろ今こそ理念を実現させなくては手遅れになること、「いつか」ではなく「いま」現実を変えるための決断だ、という辻元の言葉に最後は満場の拍手を頂きました。これから先の政治状況が、かつてないほど厳しいものになることは、事務所スタッフ一同、心底から実感しています。それでも支えてくださる皆さんがいるからがんばれます。頂いた言葉を胸に刻み、新たな船出に出発します！



きよみインフォメーション

■辻元清美国政報告会 永田町航海記in国会
『未曾有の危機を政治は乗り切れるか』

日時●10月12日(水)

13:00~15:00

会場●衆議院第2議員会館1階 多目的会議室
入場無料・要予約(定員150名)

予約・問い合わせ●

TEL03-3508-7055

FAX03-3508-3855(辻元清美事務所)

辻元清美のホームページ「つじともweb」からもご予約ができます。

<http://www.kiyomi.gr.jp>

「おひとりさまの老後」の著者で、辻元清美とも「世代間連帯」(岩波新書)を書いた上野さんと、3.11後の日本を語ります。



ゲスト：
上野千鶴子さん
(東京大学名誉教授)

■きよみ流国政報告会「永田町航海記」
『自然エネルギーが日本を変える』

日時●10月15日(土)

19:00~20:30

会場●高槻市立生涯学習センター2F多目的ホール
(高槻市役所北側)

入場無料・要予約(定員300名)

保育あり(要予約/0歳児から)・筆記通訳あり

予約・問い合わせ●

TEL072-686-2395

FAX072-686-2396(つじともネット)

e-mail: info@kiyomi.gr.jp

NHKスペシャルや報道ステーションなどでもおなじみの『ミスター・エネルギーシフト』。自然エネルギーの第一人者である飯田哲也さんをゲストにお迎えし、自然エネルギーの推進と新しいエネルギー産業の創設に向けた現実的道筋を提案します。

要予約



ゲスト：
飯田哲也さん
(環境エネルギー政策研究所所長)

カンパのお願い●辻元清美をご支援ください。

いつでもどこでも全力投球の辻元清美です。毎回のお願いで誠に恐縮ですが、事務所の運営は相変わらず厳しい状況です。カンパにぜひご協力をお願いします。

つじともネット会員募集中●

会報「つじとも通信」を年2~3回お届けする他、国政報告会「永田町航海記」等のご案内を差し上げます。

サポート会員：年12,000円 ※毎月1,000円の郵便貯金自動引き落としもご利用いただけます。

一般会員：年3000円 学生会員：年1,000円

個人特別賛助会員：年50,000円/一口(寄付金扱い・上限30口迄)

郵便振替 00960-3-150256

加入者名 辻元清美とともに！市民ネットワーク

※なお、政治資金規制法により、「つじともネット」への寄付金は日本国籍の個人に限られています。団体・法人からの会費・寄付金のお申込はできません。

